

出雲地区

保護司会 だより

第42号

目次

巻頭言 (出雲地区BBS会会長) …	1
社会を明るくする運動 ……	2
作文コンテスト ……	4
啓発講演会聴講記 ……	6
更生保護女性会の取組 ……	7
鳥根保護観察協会の取組 …	8
更生保護功労受彰者 ……	8
保護司の異動 ……	8

ボランティア(BBS)のきっかけ



出雲地区BBS会 会長

春日 智徳

NHK朝の連ドラで放送されていた「虎と翼」でも紹介がありました。が、BBS会(Big Brothers and Sisters Movement)は昭和22年に京都の学生が荒んだ社会環境の中で、孤児となり非行に走る少年たちの姿に心を痛み、行動したことにより京都少年審判所長の後押しによつてはじまりました。

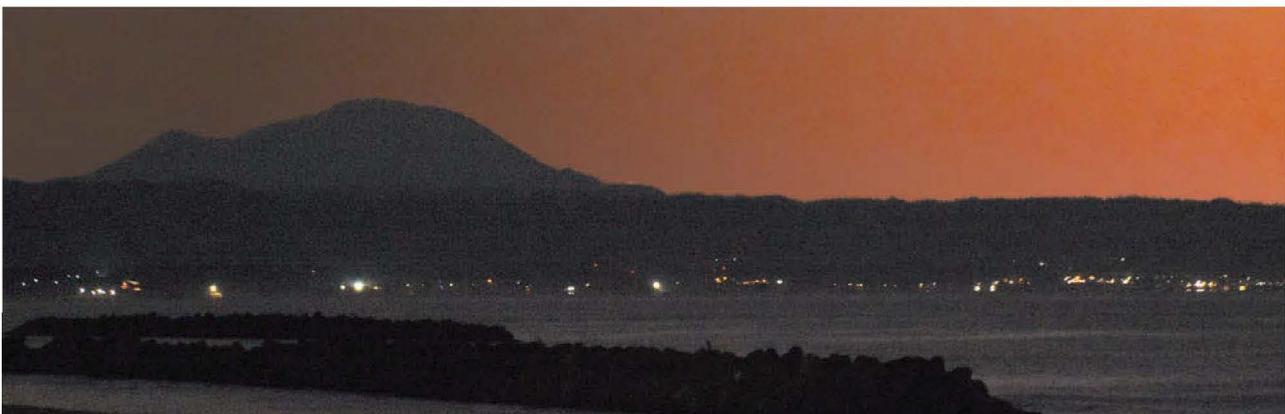
私がこの活動に入るきっかけとなったのは、当時職場の上司が保護司をしていたこともあり、「出雲でBBSを再結成したいから力を貸してくれ。」との声かけでした。

私は、以前日本相撲協会の相撲取りとして在籍をしていたこともあり、呼びかけられたのかと思っていました。

しかし、実際に関わる少年たちと一緒にスポーツや芋ほり作業などを行いながら交流していると、素直な性格の子が多く、特に相撲の経験を生かす必要のない少年ばかりでした。

加入当時は、少年たちにとって私はお兄さんの立場だったかもしれないが、現在はお父さんの立場になつていると感じます。今後はぜひ、若い人に参加してもらい、年齢的にもお兄さんやお姉さんの方々の支援が得られるようにしてもらおうと、いいと考えています。

今後とも更生保護関係の皆様へBBS活動へのご協力を賜わりたいと思います。



稲佐の浜から多伎を望む

(勝島徹正保護司 提供)

令和6年度 第74回“社会を明るくする運動”

標語及び作文の入賞作品

出雲地区保護司会では「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」をアピールする標語を、一般の部、小・中学生の部(出雲市青少年育成市民会議との共催)として募集しました。一般の部は200点、小学生の部は237点、中学生の部は312点の応募がありました。

また、第74回“社会を明るくする運動”島根県推進委員会が行った作文コンテストに協力し、小・中学校に参加を呼びかけたところ、小学生から67点、中学生から19点の応募がありました。

当保護司会で慎重に審査した結果、次のとおり入賞作品を決定しました。

たくさんの応募をありがとうございました。



最優秀賞

立ち直り
見守る優しさ 地域愛
大社町 前島 一美

優秀賞

“おかえり”と
迎える笑顔の あたたかさ
斐川町 児玉 透

伝えよう
相手が笑顔になる言葉
萩籽町 佐藤 詩織

優しさは
心に灯す 防犯灯
湖陵町 桑原 美里

立ち直る
君を見守り 励ます社会
西新町 石橋 厚

人ごとと 見て見ぬふりは
もうやめよう
大津町 有藤 晴幸

佳作

話し聞く
にっここと笑顔が 闇照らす
大社町 藤川 照子

やり直し
許す心で 見守ろう
河下町 原 由紀子

先入観
捨てて見守る 立ち直り
湖陵町 打田 薫

やさしさは
心のキズの 薬箱
湖陵町 山根 英子

うわさより
自分の目で見て 確かめて
上塩冶町 矢田 美佳

笑顔の輪
みんなで作ろう 地域の輪
武志町 築森 寛喜

考えよう 相手の立場
自分に置き換えて
斐川町 内田 万里子

認め合ふ ことから根付く
住みよい社会
斐川町 池田 功子

ありがとう 言葉でつなぐ
地域のちから
高岡町 藤原 亜紀

あいさつは
閉ざす心を 開くカギ
斐川町 為石 光代

小学生の部

最優秀賞



いっちゃんだめ
こころがけがする
そのことば
長浜小 一年 森山 湊士

優秀賞

あいさつは
え顔のたねまき 花がさく
長浜小 三年 松村 真孝

あいさつは
ごえんを結ぶ おまじない
庄原小 三年 桑原 結菜

佳作

やめようよ
あの子いじめて わらうきみ
四絡小 六年 荻田 昇真

うれしいな
たすけてくれて ありがとう
庄原小 二年 太田 帆香

あいさつは
みんなをつなぐ にじのはし
湖陵小 六年 今岡 蒼

その「ふつう」を
みんなにもとめなくていい

湖陵小 六年 持田 權

比べない みんなの個性を
みとめ合おう

湖陵小 六年 福田 天志朗

ありがとう みんながうれしく
なることば

長浜小 二年 大谷 悠仁

えがおはね ぼくとみんなの
おともだち

庄原小 二年 岩崎 優希

あたためる
人の心を あいさつで

四絡小 六年 鈴木 夏音

思いやり
笑顔の花咲く 種になる

湖陵小 六年 阿川 立樹

一人じゃない
仲間がいるよ まわりには

中部小 四年 飯塚 絢士



中学生の部

最優秀賞



境界線
なくせなくても
手をつなごう
斐川東中 三年 森山 優心

優秀賞

知っている？
いじめは立派な 犯罪だ
斐川東中 二年 渡部 陽翔

大丈夫？
よく考えて その投稿
向陽中 一年 西尾 優亜

佳作

あいさつは みんなをつなぐ
心のあくしゅ
向陽中 一年 竹内 一惺

「それはだめ」
断わる勇気が つくる未来
向陽中 二年 勝部 琴葉

SNS 画面の奥には
見知らぬあの人
斐川西中 三年 勝部 陽菜乃

なくそうよ
誹謗中傷 その言葉

向陽中 一年 西尾 優亜

多様性
色んな個性 豊かな社会

斐川東中 三年 原 悠奈

つくろうよ
偏見のない 多様な社会

向陽中 三年 北村 理葉

やりません
断る勇気 大切に

向陽中 三年 長岡 花

過去よりも
未来の希望 あかるい明日

斐川東中 一年 伊藤 玲稀

「ごめんね」と
その一言で 救われる

向陽中 一年 土江 瑞輝

一番の
犯罪対策 地域の目

向陽中 一年 北脇 優空



「社会を明るくする運動」

作文コンテスト優秀作品

小学生の部

犯罪や非行をなくす明るい社会とは

出雲市立中部小学校 五年 西 晴望



この夏、ぼくは夏休みの課題として「社会を明るくする運動作文」に取り組むことにした。ところが、

いざ作文に取りかかろうとすると、「どんな内容を題材にして書けばよいのか。」「どんな社会が明るい社会なのか。」疑問がたくさん生まれてきたので、先生に「社会を明るくする運動」とは、どんな運動なのかを聞いてみることにした。先生は、「社会を明るくする運動」とは、犯罪や非行をなくすための運動だと話され、「まずはこの本を読んで感じたことから作文に取り組んでみてはどうかな。」と言われ、一冊の本を紹介してくれた。

本の題名は、「ドッグシエルター〜犬と少年たちの再出航〜」。過ちを犯して少年院に入った子どもたちが野良犬や捨て犬のお世話を

し、犬と少年たちがともに立ち直り、人生を再出発していく話だった。とても感動的なお話で、読み始めるとどんどん先が読みたくなくなり、あつという間に読み切ってしまった。

本に登場する少年院の子どもたちは、家の都合でぎゃくたいを受けたり、まずしさから犯罪に手をそめたりして、つらく悲しい思いをしてきた子どもたちだった。同じようにシエルターに保護された犬たちも、飼い主だった人間の都合でぎゃくたいを受けたり、勝手に捨てられたりしてきた犬たちだった。でもそんなつらい体験をした子どもたちと犬たちだからこそ、互いの思いやつらさを受けとめ思いやることができ、相手を信頼する気持ちを育てることができると思った。

少年院の子どもたちと同じように、ぼくもつらく悲しい思いがたまってきて爆発しそうになったことがある。それは二年生ぐらいのときのことだった。仲のいい友達に、ボールをもっていきながら向かって「ハイ(パスして)」と言ったので、ぼくがパスをしたら、その友達は受け取ったボールをぼくとは反対の方向に向けて喜んでいく様子だった。たぶん軽い冗談のもじりでやったことだったのかもしれないが、ぼくはそのとき、すごくいやな気持ちになり傷ついた。そのときはショックで理由を聞いたしなかったが、それ以来何度か同じようなことがあり、その友達のことがあまり好きではなくなっていた。

など、身近に相談できる人がたくさんいる。でも、少年院の子どもたちには、自分の気持ちを打ち明ける人がいなかったのだと思う。犯罪や非行は、人を傷つけ絶対にしてはならないことだと思う。でも、はじめから相手を傷つけたり人にいやがられることをしたりすることが好きな人はいないと思うし、だれだっていやな思いがたまってきて爆発しそうになることはあると思う。だから、そんな思いに気づいて聞いてあげる人を一人でも増やすことが、社会を明るくすることにつながると思うのではないと思う。

そんな関係が二年間ぐらい続いたころ、ぼくのイライラした様子に気づいた父と母が事情を聞いてくれた。ぼくは、今までたまった思いを打ち明けた。話すだけで気持ちが楽になった。父と母はその後先生に連絡してくれて、ぼくはその友達とお互いの気持ちを伝え合い、仲直りをした。自分の気持ちがあわかってもらえてスッキリとしたし、一人でなやまないでもっと早く相談すべきだったと反省した。今ぼくには、家族や友達、先生

ぼくには目の前に起きる犯罪や非行をとめることはできないかもしれない。でも身近な人のなやみを聞いて、一緒になって考えることはできると思う。悲しい気持ちで落ち込んでいる友達がいいたら「大丈夫？」と声をかけてあげられる自分になりたい。そして、また自分につらく悲しい気持ちがあったら、一人でなやまず、信頼できる身近な人に相談できる自分でいたいと思う。



中学生の部

周りに流されないことの大切さ

出雲市立斐川東中学校 三年 深田 聖奈

みなさんは、普段SNSなどを視聴する中で、コメント欄に目を通したり、自分がコメントをしたりはありますか。私は毎日SNSを視聴している上、コメント欄もよく見ているので、動画に対して寄せられるたくさん意見や疑問に共感したり、新しいことに気付かされたりする日々を送っています。

そんな中、私はある動画に出会いました。それは、私と近い年くらいの女の子がダンスを踊っている動画でした。私はその動画に対して特に何も思わず、見終わってからスクロールしようと思いましたが、コメントの数がやけに多いなと思いました。するとそこにあつたのは、女の子を批判するようなコメントばかりでした。「下手くそ」「この人ならダンス勝

てそう」「動画に載せられるほど上手じゃない」私はそのようなコメントを読んでいくうちにどんどん胸がしめつけられていくのを感じたし、そのようなことを思うたとしてもわざわざコメントを書く必要はないのではないかと思いました。しかし、そのコメントに対して、自分はダンスを習っているわけでもないし、上手にも踊れないけれど、確かにこの方のダンスはとても上手というわけではないなと思ってしまう自分がいました。今思うとすごく最低なことだし、情けないなと思います。そんなことを思ってしまった私でしたが、他のコメントにも目を通して見ると、ひときわいいねの数が多いコメントが目に残りました。それは、「ダンス習っているのにこんなに上手に踊れているのはすごい！練習したらもっと上

手くなれる！」といったコメントでした。周りの批判に流されることなく投稿者の背中を押すようなそのコメントは、私にはとても輝いて見えました。そして、素直にかっこいいな、と思いました。私はこの時、周りの意見に流されず、自分の素直な意見を人に発信することの大切さを改めて感じました。このコメントがなければ、私はそのようなことに気づくことはできなかっただろうし、何より投稿者の方がずっと傷ついてしまうばかりだったと思います。この優しくして前向きなコメントは、私にとっても、批判していた人たちにとっても、そして投稿者の方にとっても、何かを変えてくれる大切なきっかけになったと思います。自分が周りと異なる意見を持つていた時、たとえその考えが正しいものであったとしても、人に発信するのは勇気がいることだと思います。そう思うと、コメントを通して自分の思いを発信したこの方は、私にとってヒーローのような存在だと感じました。私はそのコメントにいいねをつけ、

自分もこのような素直な心を持つ人になりたい、と強く思いました。SNSはお互いの表情が見えないため、何も考えずに簡単にメッセージを送ることができず。そしてそれが相手を不快にさせるようなコメントの場合、誹謗中傷という最悪な事態につながってしまう可能性もあります。そうなってしまわないためにも、メッセージやコメントを送る時には、これを送ったら相手はどう思うか、周りの意見に流されてはいないかということをよく考えることが必要だと思います。また、物事を否定的に捉えずに前向きに捉えるなど、自分自身の考え方を変えていくことも大事なことのひとつだと思います。たとえ周りの人とは異なる意見を持つていたとしても、自分が思っていることに自信を持って発信する人が増えていけば、社会がもっと明るく、前向きなものになっていくと私は思っています。

自分もこのように素直な心を持つ人になりたい、と強く思いました。SNSはお互いの表情が見えないため、何も考えずに簡単にメッセージを送ることができず。そしてそれが相手を不快にさせるようなコメントの場合、誹謗中傷という最悪な事態につながってしまう可能性もあります。そうなってしまわないためにも、メッセージやコメントを送る時には、これを送ったら相手はどう思うか、周りの意見に流されてはいないかということをよく考えることが必要だと思います。また、物事を否定的に捉えずに前向きに捉えるなど、自分自身の考え方を変えていくことも大事なことのひとつだと思います。たとえ周りの人とは異なる意見を持つていたとしても、自分が思っていることに自信を持って発信する人が増えていけば、社会がもっと明るく、前向きなものになっていくと私は思っています。



令和六年七月一日、出雲市民会館において七十四回「社会を明るくする運動」の啓発講演会が行われました。今回は、講師として「大道芸人たつきゆうさん」をお迎えし、『笑顔で心豊かに過ごすコツ』と題して講演をいただきました。



呼びする時に困る。」と言われることもあり、皆さんに迷惑をかけていると、早速会場の笑いを誘っておられました。また、「たつきゆうさん」は、京都大学を卒業後、京都大学大学院人間・環境研究科で学ばれました。そして、大道芸で培った笑いとの座学を融合すれば、より多くの人に笑いのもつ様々な効用を知ってもらうことにつながるのではないかと願い、今の活動をなさっているそうです。

まず、「皆さんは一日に何回くらい声に出して笑っていますか？」という質問から始まりました。三歳から五歳くらいの子どもの多い時で三百〜四百回くらい笑うのだそうです。年を取るにつれて笑わなくなる傾向にあります。大人は自分のことは後回しにしがちで、笑うことがだんだん少なくなりませんが、自分自身をいたわることも大事です。



講演中にも簡単なクイズをしたり、ちよっとインチャキナマジックをしたりして、終始笑いのある楽しい講演でした。

冒頭でまず自己紹介がありました。本名は「田久(たきゆう)」という珍しい名前だが、お子さんからも親しみを込めて呼んでもらえるように「たつきゆうさん」という芸名にしたということでした。「休さん」と響きが似ていて覚えてもらいやすいけれど、大人からは「たつきゆうさん」「さん」が重なってお

「一部…笑顔で心豊かに過ごすコツ」
①風船バルーンアート
三本の風船を使い、ハートの中でチューをするワンちゃん。
②ジャグリング
ボール三個で、三パターン。ボール五個使用。(定もつかつて)三角コーンで額に載せて回す。パチで回す。等々
③日本芸能(縁起物) 皿回し 他
見事な手さばき(足さばき?)に目が釘付けになりました。また、パフォーマンスの合間に語られる絶妙で楽しいお話に笑いが絶えず、あつという間の時間でした。

「一部…笑顔で心豊かに過ごすコツ」
①人と会話を
②趣味や好きなことをやってみる
③オシャレやおめかしをしてみる
(金さん、銀さんの例)です。
講演中にも簡単なクイズをしたり、ちよっとインチャキナマジックをしたりして、終始笑いのある楽しい講演でした。

笑顔で心豊かに過ごすコツ
私もあなたも輝く イキイキ人生
啓発講演会 聴講記
保護司 佐藤 道子

笑いは人から人へ伝染する
自分が明るくいると周りも明るくなる
人と人とのつながりを実感できる
自分の心の幸をもつながら

げたり、精神を安定させたり、ストレス解消させたりするなど、様々な健康効果について、研究事例をもとに具体的にお話しいただきました。
さらに、フレイル(身体と心が少し衰えた状態で、健康と要介護の間の状態)予防が介護予防にもつながるという話でした。笑いでも心身の衰えを和らげることが出来ます。そのことが介護予防にも長生きにもつながります。そこで長生きする秘訣についても話されました。



60周年記念の会
オープニングセレモニー
“ママサンプルの皆さんによる演奏”



島根あさひ社会復帰促進センター訪問



皆で更生保護者への贖罪の気持ちをしっかり持って過ごしてほしいこと。ここでの経験を糧に社会復帰を果たし、今後の人生を幸せに歩んでほしいことなど。

一 総会・講演会
毎年、松江保護観察所長、出雲地区保護司会長、保護司、コミュニティセンター長にご臨席いただき開催。併せて講師を招き、会員の励まし、心の糧となり、活動の導きとなるようなお話をいただいています。

二 会員研修・矯正施設等訪問
今年「島根あさひ社会復帰促進センター」の研修を実施。以下のような感想が寄せられました。自分の息子のような若者が監視の下、作業をしている姿に胸が詰まり身の上を想像し、辛い気持ちになったこと。所内に「被害者の目」「社会の目」の張り紙があり、考えさせられたこと。入所者は被害



宿泊研修の見守り



手作り玩具の製作風景と作品



ミシン学習の補助

五 地域の他団体との協働活動
明るい社会の実現のためにはより多くの他団体との協力や、問題意識の共有が大切だと思います。昨今、加害者だけでなく、被害者やそのご家族への理解やサポートの大切さがクローズアップされてきました。
昨年は松江市にある犯罪被害者サポートセンターから専門家を招き、保護司会、民生児童委員会、人権教育推進協議会、各地区コミュニティセンター長等六つの地区団体の皆さんと一緒に学ぶ機会を持ちました。
これからも、皆で手を携えて進んでいきたいと思います。

活動への思いを新たにしました。
三 青少年育成・子育て支援活動
主な活動に、小学校での「ミシン学習」の補助や「宿泊体験学習」の見守り等があります。
また、幼稚園、保育園等に布製の手作り玩具を製作し届けています。これらの玩具で園児と一緒に遊んだり、紙芝居や絵本の読み聞かせをしたりと、子ども達の健やかな成長を感じられる機会を共有しています。
そして、町内十一の小・中学校、幼稚園、保育園に子ども達の心の栄養になる事を願い、「愛の図書カード」を贈呈しています。



フードドライブ
(県立大出雲キャンパス-出雲林木町一)

四 社会貢献活動
子どもを抱え、生活が苦しいご家庭の一助にと、また、厳しい経済状況の中、学業に取り組んでいる学生達を応援するため、食料品・生活物資等を提供しました。社会福祉協議会と連携したり、大社更女単独で県立大学に届けました。

大社地区更生保護女性会
明るい社会づくりにむけて
会長 川上 清子

昭和三十八年に結成された大社地区更生保護女性会は、昨年六十年を迎え、現在百九名の会員で活動しています。
これまで更生保護と青少年育成を柱とした「明るい社会づくり」を目指し歩んでまいりました。近年の活動を中心に紹介させていただきます。

「更生保護法人 島根保護観察協会」の 会員を増やす為の取り組み

(高松地区における取り組みの一例)



私が保護司に就任してから8年経ちました。毎年7月の「社会を明るくする運動伝達式」頃から協会の会費集めが始まります。協会の会費は、更生保護事業を営む者及び保護司活動に対する連絡・調整・助成とか広報活動等に使われており、これらの活動推進に必要な不可欠な会費です。

私が高松地区に就任してからは、更生保護事業を営む者及び保護司活動に対する連絡・調整・助成とか広報活動等に使われており、これらの活動推進に必要な不可欠な会費です。

その集金の時、会費を払って頂いている方々がほぼ同じでしかも高齢である事が非常に気に掛かっていました。協会の会員の状況は如何に：と思いついてみると、令和元年と令和5年で県全体では会員数で11%(607人)、会費で7.5%(118万円)減少、出雲地区でも各々13.7%(212人)、11.2%(50万円)減少している事がわかりました。予想より大きな減少でした。このことから、更生保護事業が縮小して行っていると思えます。犯罪件数は、徐々に減少していると

言っても、再犯率は高止まりしています。少しでも減らす為には、この事業をより活発に行う必要があります。この会費集めは1件1件集めて回るといふ苦労があります。何とか一度に多く集める事が出来ないかと考えていましたが、丁度私が民生委員をしていましたので、地域の福祉活動に熱心な方々である民生委員の仲間に呼びかけて見ようと思いました。民生委員は、1回/月会合があり、集金も一括で出来ます。思っていた通り、皆さん協会の活動主旨に賛同頂き、入会頂きました。

この民生委員への働きかけは、協会への加入と言う事だけでなく、保護観察活動と民生委員活動との協力強化と言う面からも有効な事ではないかと思えます。今後、同様なケースがあると考え、更なる働きかけを行いたいと考えています。

高松地区 保護司 嘉本 武司

更生保護功勞受彰者

法務大臣表彰

園山久美子

全国保護司連盟理事長表彰

鈴木二朗 和田晶隆

中国地方更生保護委員会委員長表彰

朝山一玄 加地崇志

榎野博巳 西尾弘道

糸賀太道

中国地方保護司連盟会長表彰

打田美喜子 嘉本武司

坂本美喜雄 角 美幸

村上 勉 渡部亨次

佐々木知江三 竹下正宏

三島健二 山本 登

松江保護観察所長表彰

吾郷宏光 津戸弘光

山岡 尚 林 誠治

島根県保護司会連合会会長表彰

尾添 隆 藤井哲眞

赤井賢照 坂本正人

宮岡 泉 山崎寧子

横田直己 米田暁雄

島根県知事感謝状

坂根光紀

こもれび

本年五月に起きた大津市の保護司殺害事件は大変衝撃的な事件で、保護司のことが広く知られることとなった。十月初めに、法務省の有識者検討会による保護司制度見直しの最終報告が公表され、保護司の安全対策が追加で盛り込まれた。又、なり手不足対策のため報酬制も検討されたが、「自発的な善意を象徴するものでない」と結論付けられた。個人的にも私自身そう思っ

保護司の異動

◎退任

打田美喜子(出雲)

榎野博巳(平田)

原 洋子(大社)

(令和六年十一月三十日付)

◎新任

西谷弘允(出雲)

松岡裕二(出雲)

村上雅子(出雲)

祝部宜弘(平田)

(令和六年十二月一日付)

◎再任

三島洪道 岸 篤彦

山上太全 嘉本武司

坂本美喜雄 坂本裕太

尾添 隆 片寄靖久

土江志朗 (以上出雲)

角 美幸 渡部亨次

上村博子 (以上平田)

村上 勉 今岡輝夫

昌子春美 (以上斐川)

藤井哲眞 (以上河南)

(令和六年十二月一日付)